

令和6年12月20日

## 文化審議会の答申（史跡名勝天然記念物の指定等）

文化審議会（会長 <sup>しまたに</sup> 島谷 <sup>ひろゆき</sup> 弘幸）は、令和6年12月20日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、史跡名勝天然記念物の新指定7件・追加指定等31件及び登録記念物の新登録4件について、文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細は、別紙のとおりです。

この結果、官報告示を経て、史跡名勝天然記念物は3,383件、登録記念物は138件となる予定です。

### <担当> 文化庁文化財第二課

課長	田中 禎彦
課長補佐	上田 和輝
主任文化財調査官（史跡部門）	渋谷 啓一（内線9767）
主任文化財調査官（名勝部門）	平澤 毅（内線9776）
主任文化財調査官（天然記念物部門）	江戸 謙顕（内線9778）
主任文化財調査官（埋蔵文化財部門）	近江 俊秀（内線9766）
審議会係長	今村 結記（内線9757）

電話：075-451-4111（代表）

別 紙

史跡名勝天然記念物

(令和6年12月20日現在)

種 別	現在指定件数	今回答申件数			合計（現在指定件数と 答申件数との合計）
		新指定	解除	統合に よる減	
史 跡 (うち特別史跡)	1, 905 (64)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	1, 911 (64)
名 勝 (うち特別名勝)	431 (36)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	432 (36)
天然記念物 (うち特別天然記念物)	1, 040 (75)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1, 040 (75)
合 計 (うち特別史跡名勝天然記念物)	3, 376 (175)	7 (0)	0 (0)	0 (0)	3, 383 (175)

(備考)

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して指定が行われている場合（例えば、名勝及び天然記念物など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複指定物件を1件として数えた場合、

現在指定件数は、 3, 261件

答申後合計件数は、 3, 268件 です。

登録記念物

(令和6年12月20日現在)

種 別	現在登録件数	今回答申件数		合計（現在登録件数と 答申件数との合計）
		新登録	抹 消	
遺跡関係	13	0	0	13
名勝地関係	115	4	1※1	118
動物、植物及び 地質鉱物関係	7	0	0	7
合 計	135	4	1	138

※1 「島原城跡」史跡指定に伴う、登録記念物「小早川氏庭園」の抹消

(備考)

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば、遺跡関係及び名勝地関係など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複登録物件を1件として数えた場合、

現在登録件数は、 134件

答申後合計件数は、 137件 です。

## 「新指定・新登録」答申物件

### 《史跡名勝天然記念物の新指定》

#### 【史跡】 6件

「飛驒国南部の領主三木氏が築いた山城。石垣が現存し、金森氏による破城の跡が残る」

#### 1 松倉城跡【岐阜県高山市】

飛驒国南部の領主三木氏が松倉山（標高856.7m）の山頂に築いた山城。尾根上に堀切、山頂部に本丸、二ノ丸、三ノ丸を配する。本丸等中枢と二ノ丸南北の石垣構造の違いから2時期の造成が想定される。土造りから総石垣化、さらに金森氏による破城に至る変遷が判明する。



提供：高山市

「大宰府政庁の南東の丘陵上に立地する古代の土塁状遺構」

#### 2 前畑遺跡【福岡県筑紫野市】

大宰府政庁の南東の丘陵上に立地する古代の土塁状遺構。古代大宰府を取り巻く水城跡、大野城跡等とともに要衝施設の一つとして有機的に連動し、自然地形を取り込む形で一体的に機能して大宰府の外郭線を構成している可能性が指摘されるなど、古代の外交窓口であった大宰府の構造を考える上で重要。



提供：筑紫野市

「元和4年（1618）に着工した簡素な平面プランと堅牢な防御空間で構成された近世城郭」

#### 3 島原城跡【長崎県島原市】

有明海に面し、松倉重政により元和4年（1618）から7年間かけて築かれた近世城郭。長方形の外郭線内に、本丸、二ノ丸、三ノ丸を直線上に配置し、堀が囲う二ノ丸と本丸には枡形空間を並置する構造を持ち、島原・天草一揆勢を撃退した堅牢性を誇った城郭。



提供：島原市

「縄文時代早期から前期における九州と朝鮮半島との交流を示す遺跡として重要」

#### 4 越高遺跡【長崎県対馬市】

縄文時代早期末から前期にかけての集落遺跡。対馬最古の遺跡で、九州と朝鮮半島の特徴を有する遺構・遺物が出土している。縄文文化と朝鮮半島の新石器文化の境界域における特徴を示す遺跡であり、我が国における縄文文化の多様性を具体的に示す遺跡として重要。



提供：対馬市

「大友義鎮が築き、退転後、石垣等が造営され砂州を三之丸として拡張された城郭」

#### 5 臼杵城跡【大分県臼杵市】

戦国時代、大友義鎮（宗麟）により丹生島に築かれた島城。大友氏退転後に入った太田氏により石垣、枡形、瓦葺建物等が造営され、砂州を三之丸として城域を拡張し、稲葉氏によって整備された。江戸時代に前代の構造を継承しつつ本丸と二之丸を替える等、城主の変遷とともに構造、空間構成が変遷した城郭として重要。



提供：臼杵市

「14世紀前半～中頃築造の最北端の大型琉球式グスク跡。南方社会の実態を知る上で重要」

#### 6 与論城跡【鹿児島県大島郡与論町】

14世紀前半～中頃築造の最北端の大型琉球式グスク跡。境界領域の城郭として、明、琉球、奄美、薩摩などによる東シナ海域の歴史的な状況の変化に連動し、築城され、変遷を遂げた城郭であったと言え、当時の南方社会の実態を知る上でも重要。



提供：与論町

【名勝】 1件

「近世以前から親しまれてきた湧泉の名勝地で<sup>だじょうかんふたつ</sup>太政官布達に基づく初期の公園」

1 <sup>のいけ</sup>納池【<sup>たけだし</sup>大分県竹田市】

久住高原の火山麓扇状地末端からの湧泉によって形成された景勝地で古くから知られ、<sup>だじょうかんふたつ</sup>太政官布達に基づき初期に開設された公園の九州地方における事例として貴重で、日本公園史における学術上の価値が高く、湧泉に特徴付けられる風致景観は優れている。



提供：竹田市

《登録記念物の新登録》

【名勝地関係】 4件

「低山ながら東西南北に眺望が開けて奈良盆地や大阪平野などを広く眺める展望地点」

1 <sup>みょうじんやま ひるめやま</sup>明神山（送迎山）【<sup>きたかつらぎぐんおうじちょう</sup>奈良県北葛城郡王寺町】

生駒・金剛山系の中でもひとときわ低い岳峰でありながら四方八周の眺望に開け、東の奈良盆地や西の大阪平野、南北の山並み<sup>いちぼう</sup>を一眸のうちに収める眺望地点で、古代以来の地域における歴史文化の象徴を成すとともに現代にも広く親しまれている名所として意義深い。



提供：王寺町

「昭和初期に神戸の庭師・<sup>たつみたけのすけ</sup>巽武之助によって造られたと伝わる、町家の庭園」

2 <sup>まるいしえていん</sup>丸井氏庭園【<sup>くらよしし</sup>鳥取県倉吉市】

昭和初期に神戸の庭師・<sup>たつみたけのすけ</sup>巽武之助によって造られたと伝わる、町家の庭園。南北に細長い敷地の北側に主屋と茶室、南側に離れと土蔵が建ち、その間に築山、園池などがある。離れからは北に向かって飛石が続き、庭門、築山、園池を経て、腰掛待合、茶室へと至る。



提供：倉吉市

「<sup>さらがみね</sup>皿ヶ嶺斜面地に堆積した<sup>きよれき</sup>巨礫の隙間から夏季の冷氣噴出で独特な風致景觀をなす名勝地」

3 <sup>かみはやし</sup>上林の風穴【<sup>かざあな</sup>愛媛県<sup>とうおんし</sup>東温市】

松山平野の東部南側にそびえる<sup>さらがみね</sup>皿ヶ嶺の北斜面の<sup>かみはやし</sup>上林地区に所在する名勝地で、岩塊堆積物の内部に溜まった空気により、夏季にはその周辺に冷氣が漂うとともに霧が白く発生して鬱蒼とした林床に<sup>こけむ</sup>苔生した<sup>きよれき</sup>巨礫の折り重なる様子と相俟って印象的な風致景觀を成す。



提供：東温市

「岩峰群中腹の洞穴とその入口に設けられた薬師堂などから成る名勝地」

4 <sup>あないどかんのん</sup>穴井戸観音【<sup>ぶんごたかだし</sup>大分県豊後高田市】

<sup>くにさき</sup>国東半島南西部の<sup>たしづ</sup>田染に所在し、<sup>たしづまなか</sup>田染真中と<sup>たしづおさき</sup>田染小崎の境に岩峰群を成す<sup>まどんいわ</sup>間戸ン岩の<sup>たしづ</sup>田染<sup>まなか</sup>真中側の北西部中腹において南東に口を開いた洞穴とその入口に設けられた薬師堂などから成る名勝地で、水にまつわる信仰地として崇められてきた。



提供：豊後高田市

# 史跡名勝天然記念物の指定等

## 《史跡の新指定》 6件

### 1 <sup>まつくらじょうあと</sup>松倉城跡【<sup>たかやまし</sup>岐阜県高山市

松倉城跡は、16世紀後半に高山盆地に進出した飛驒国南部の領主三木<sup>みつぎし</sup>氏の拠点で、標高856.7mの松倉山山頂に築かれた山城跡である。北東と東の尾根筋に堀切や曲輪を設け、山頂部に本丸、二ノ丸、三ノ丸を配しこれらを総石垣化している。本丸の北側中心部は穴蔵<sup>あなぐら</sup>状に石垣が囲む。

本丸と、その南西に伸びる三ノ丸には、5～8mの高さで、長さ2mを超える巨石を用い、隅角部に算木積みを志向する高石垣が築かれる。一方、本丸東にある二ノ丸の北側及び南側には小型の石材を用いた低い石垣が、東側には隅角部は算木積みを目指すが大部分が中小石材による乱積みの石垣が築かれている。粗い石積みや竪堀、堀切等を用いて北側と東側を意識する遺構と、高石垣を築き西側と南側からの防御を意識する二系統の城郭遺構から、二段階で築城された状況が想定される。三木氏による当初の築城と、その後の改修によるものと考えられる。

また、三ノ丸南には出柵形虎口、三ノ丸北西には埋門<sup>うずみもん</sup>が設けられていたが、一帯が築石<sup>つぎいし</sup>等で埋められ、本丸北側と同様に、破城された痕跡と考えられる。

戦国時代の飛驒国の政治状況や、土造りの城から石垣を持つ城、そして破城、という城郭の変遷を知る上で極めて重要な遺跡である。

### 2 <sup>まえはたいせき</sup>前畑遺跡【<sup>ちくしのし</sup>福岡県筑紫野市

前畑遺跡は、大宰府政庁の南東、福岡平野と筑後平野とを結ぶ狭長な平野部に向かつて脊振<sup>せふり</sup>山地から東に延びる丘陵に立地する古代の土塁状遺構である。

土塁状遺構は、下端幅14～15m、全体高2.5～3.5mの二段築成を基本としており、丘陵の稜線からやや下った斜面や鞍部に、長さ558m以上にわたって断続的に確認されている。南北に延びる土塁状遺構の東側にある丘陵の頂部で7世紀中葉の小規模な円墳が確認されていること、残存する土塁状遺構の約4m東側の本来土塁状遺構が延伸していたと考えられる場所に9世紀後半の土坑墓が確認されていることなどから、7世紀中葉以降から9世紀後半頃までの間に機能していたと考えられている。

前畑遺跡の土塁状遺構の構築法は多様であり、古代の技術を知る上でも重要であるとともに、大宰府と強い関係性が指摘される阿志岐山城跡<sup>あしきさんじょうあと</sup>、基肆城跡<sup>きじょうあと</sup>というふたつの古代山城を結ぶライン上に位置することは、その性格を考えるうえで示唆的である。さらに、水城跡<sup>みづきあと</sup>、大野城跡<sup>おおのじょうあと</sup>、基肆城跡<sup>きじょうあと</sup>、関屋土塁<sup>せきやどるい</sup>、とうれぎ土塁等とともに要衝施設の一つとして有機的に連動し、自然地形を取り込む形で一体的に機能して大宰府の外郭線を構成している可能性が指摘されるなど、九州の拠点であり、古代の外交窓口であった大宰府の

構造を考える上でも重要である。

### 3 島原城跡【長崎県島原市】

島原城跡は、有明海に面し雲仙岳東方の扇状地上に、松倉重政により築かれた近世城郭の跡である。東西約350m、南北約1,200mの長方形の外郭線内に、南から方形の本丸、二ノ丸、そして三ノ丸御殿を直線上に配置し、その外側に家臣団の屋敷群を置き、外郭に31棟の櫓を規則的に置いた石垣で囲む堅牢な城郭である。寛永14年(1637)に勃発した島原・天草一揆では一揆勢の包囲を撃退している。一揆後に松倉氏が改易され譜代大名の高力氏が入った後、途中宇都宮藩主の戸田氏との交代期を挟みながら深溝松平家の居城となり、明治維新まで島原藩の政庁として機能した。

本丸には、径最大3mの鏡石を持つ織豊系城郭の様式の石垣と、算木積み志向する高さ17mの高石垣があり、近世城郭へ至る過渡期の石垣の特徴が見られる。堀が囲む本丸と二ノ丸は、郭内に枳形空間を並置し防御を意識した堅固な構造を持つ。また、外曲輪には、当時の屋敷割が継承され、現在の小早川氏庭園周辺は敷地内の庭園等を通じて城内の水利状況を伝える。

江戸幕府が新規築城を制限した中で築かれた数少ない城郭で、有明海を介して雄藩と接する位置にあるため、幕府も重要視した。江戸時代初期の島原半島や周辺地域との関わりを伝える重要な遺跡である。

### 4 越高遺跡【長崎県対馬市】

長崎県対馬市上県町越高(対馬北西部)の海岸に位置する縄文時代早期末から前期にかけての集落遺跡である。A地点と尾根を挟んで約50m離れたB地点の2地点で構成され、A地点の海岸部では板石を約1.1m四方に組み合わせた炉跡が確認された。規格性の高い方形炉は朝鮮半島東海岸から南海岸沿いの遺跡に認められるものであり、日本列島には類例のないものである。

また、両地点では縄文時代前期の土器と朝鮮半島南部の新石器時代早期から前期の土器群とが共伴しつつ層位的に出土した。また、各層から出土した石器のうち主体となるのは、佐賀県伊万里市の腰岳産黒曜石を利用した打製石鏃であり、同多久市に原産地を有するサヌカイトを利用した削器類も出土する。その他、磨製銚頭や大型ナイフ等、朝鮮半島南海岸地域で出土するものと類似する石器が含まれる。

本遺跡は、対馬最古の遺跡であり、縄文時代早期末から前期にかけての九州と朝鮮半島の特徴を有する遺構・遺物が出土している。縄文文化と朝鮮半島南部の新石器文化の境界域における特徴を示す遺跡であり、我が国における縄文文化の多様性を具体的に示

す重要な遺跡である。

## 5 臼杵城跡【大分県臼杵市】

臼杵城跡は、有力戦国大名の大友義鎮（宗麟）によって弘治2年（1556）に臼杵川河口にある東西約420m、南北約100mの丹生島に築かれた島城である。大友氏退転後に石垣、枡形、瓦葺建物等が造営され、祇園洲と呼ばれる砂州を三之丸として城域を拡張した。

丹生島西側からは大友氏期の政治執行空間である「御殿」と想定される遺物・遺構が確認され、築城当初は海側を大手とし西半を主郭としていたと考えられる。大友氏の後に入った太田一吉は、城郭の石垣化を進め、主郭と副郭を反転させ丹生島東側を本丸として天守を築いた。丹生島西岸と砂州を橋で結び、架橋場所の古橋口を大手とし、祇園洲を三之丸として造成し始めた。関ヶ原合戦後に入部した稲葉氏は、本丸と二之丸を連郭式縄張りに整え、三之丸の拡張整備を進め、三之丸との通路として今橋口登城路を新たに設けた。17世紀中葉には天守の改修を実施し、延宝3年（1675）に城主居館を本丸から西之丸（二之丸）へ移した。

天然の要害としての地形的特徴を生かして築かれた中世城郭が、城主の変遷とともに内部構造や空間構成を変えながら、織豊系城郭、近世城郭と発展し、度重なる改修を経て、明治期の廃城まで利用された城郭の変遷を物語る重要な遺跡である。

## 6 与論城跡【鹿児島県大島郡与論町】

与論城跡は、標高93mの琉球石灰岩の台地の縁辺部から断層崖下までの比高差70mの急斜面とその間の平坦面に立地する最北端の琉球式グスク跡。発掘調査の結果、沖縄においてもグスクの整備が始まる14世紀前半～中頃に台地部分の造成と石垣の構築が開始され、沖縄本島において三山と明との交易が活発化した時代から尚巴志による三山統一が行われる14世紀後半～15世紀中頃に、崖下部分の造成や石垣や建物の構築が行われ、現在の城域が整備されたと考えられる。

そして、第二尚氏による中央集権化が進められ、琉球王国の勢力が拡大していく15世紀後半～16世紀に、城としての機能が急激に低下し、薩摩による琉球侵攻が行われる17世紀以前に廃絶する。

与論城跡は、境界領域の城郭として、明、琉球、奄美、薩摩などによる東シナ海域の歴史的な状況の変化に連動し、築城され、変遷を遂げた城郭であったと言え、当時の南方社会の実態を知る上でも重要である。また、保存状態も良好で、築城技術には琉球の影響が強く認められるなど、琉球式グスクの築城技術の伝播を知る上でも重要である。

## 《特別史跡の追加指定》 2件

### 1 藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏、大極殿及び役所群が建てられた。今回、条件の整った部分を追加指定する。

### 2 大宰府跡【福岡県太宰府市】

古代において西海道諸国(現在の九州)の統括と大陸外交の拠点として設置された役所跡。天智天皇2年(663)の白村江の戦いの後、水城や大野城などが築かれ防備が強化された。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 《史跡の追加指定及び名称変更》 2件

### 1 讚岐遍路道【香川県善通寺市】

曼荼羅寺道

甲山寺境内

善通寺境内

根香寺道

志度寺境内

大窪寺道

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の讚岐国(香川県)部分。今回、江戸中期の本堂と江戸後期の大師堂、山門、鐘楼などが残り、背後に甲山がある第74番札所甲山寺境内を追加する。第75番札所善通寺の北1.2kmに位置する。

## 2 <sup>とさへんろみち</sup>土佐遍路道【<sup>むろとし</sup>高知県室戸市・<sup>とさしみずし</sup>土佐清水市】

<sup>ほつみさきじみち</sup>  
**最御崎寺道**

<sup>こんごうちょうじみち</sup>  
**金剛頂寺道**

<sup>こんごうちょうじけいだい</sup>  
**金剛頂寺境内**

<sup>こうのみねじみち</sup>  
**神峯寺道**

<sup>ちくりんじみち</sup>  
**竹林寺道**

<sup>ぜんじふじみち</sup>  
**禪師峰寺道**

<sup>きよたきじけいだい</sup>  
**清瀧寺境内**

<sup>しょうりゅうじみち</sup>  
**青龍寺道**

<sup>こんごうふくじみち</sup>  
**金剛福寺道**

<sup>かんじざいじみち</sup>  
**観自在寺道**

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の土佐国（高知県）部分。今回第24番札所最御崎寺に向かう道、第26番札所金剛頂寺に向かう道、金剛頂寺境内、第27番札所神峯寺に向かう道（以上室戸市）、第38番札所金剛福寺に向かう道（土佐清水市）を追加指定する。

### 《史跡の追加指定》 26件

#### 1 <sup>これかわせつきじだいせき</sup>是川石器時代遺跡【<sup>はちのへし</sup>青森県八戸市】

縄文時代前期～晩期の大規模な集落遺跡。縄文時代集落の構造や変遷が明らかになるとともに、晩期には低湿地から大量の漆器・木製品・彩色土器・土偶などが発掘されるなど豊かな生活様式を明らかにした。東北地方の縄文文化を代表する遺跡として極めて重要である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 2 <sup>かしまじんぐうけいだい</sup>鹿島神宮境内 <sup>つけたり</sup>附 <sup>ぐうけあと</sup>郡家跡【<sup>かしまし</sup>茨城県鹿嶋市】

『常陸国風土記』にもみえ、古来より朝廷・藤原氏・武家の崇敬を集めた我が国を代表する神社と、常陸国鹿島郡の郡家（役所）の跡。郡家跡では政庁、正倉院、工房等の跡が見つかっており、今回、正倉院南西部を区画する大溝を検出した周辺範囲を追加指定する。

#### 3 <sup>こうずけのくにさ い ぐんしょうそうあと</sup>上野国佐位郡正倉跡【<sup>いせさきし</sup>群馬県伊勢崎市】

7世紀後半から10世紀前半にかけて機能した<sup>こうずけのくにさ い ぐうけ</sup>上野国佐位郡家の正倉と考えられる遺跡。全国でも最大級の正倉域をもち、八角形倉庫をはじめとする多数の礎石建物や掘立柱建物が検出された。八角形倉庫は『<sup>こうずけのくにこうたいじつろくちょう</sup>上野国交替実録帳』で「<sup>はちめんこうそう</sup>八面甲倉」と記載さ

れた建物に符合し、上野国佐位郡家であることが確認された遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 4 <sup>なかせんだう</sup> <sup>あんなかし</sup> 中山道【群馬県安中市】

江戸時代の<sup>ごかいどう</sup>五街道の一つで、江戸<sup>えど</sup>日本橋から<sup>くさつしゆく</sup>草津宿で東海道の合流するまでの街道。今回は、横川にある<sup>うすいのせきあと</sup>碓氷関跡と、坂本宿西方の街道が残る箇所から、<sup>うすいとうげ</sup>碓氷峠へと登り、軽井沢宿の東方にある碓氷峠の熊野神社までの約8 kmを追加指定する。途中には<sup>はねいし</sup>芻石茶屋跡や<sup>どうみね</sup>堂峰番所跡などが所在する。

#### 5 <sup>したのや</sup> <sup>にしとうきょうし</sup> 下野谷遺跡【東京都西東京市】

墓と考えられる中央部の土坑群を取り囲むように、竪穴建物群と掘立柱建物群が直径150mの範囲で配置される。規模・内容とも南関東の同時期の集落では傑出しており、縄文時代中期後半の大規模な環状集落として重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 6 <sup>しもてらおかんがいせきぐん</sup> <sup>ちがさきし</sup> 下寺尾官衙遺跡群【神奈川県茅ヶ崎市】

神奈川県東部に所在する<sup>さがみのくにたかくらぐうけ</sup>相模国高座郡家と考えられる官衙遺跡群。正庁・正倉は7世紀末から8世紀中葉まで二期にわたって変遷し、その南西部には七堂伽藍跡と呼ばれる郡寺が所在している。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 7 <sup>しもてらおにしかたいせき</sup> <sup>ちがさきし</sup> 下寺尾西方遺跡【神奈川県茅ヶ崎市】

弥生時代中期後半に営まれた環濠集落跡。出土遺物には土器のほか石器と鉄器があり、利器が石器から鉄器へと移行していく時期の在り方を示している。南関東における拠点集落であり、弥生時代中期社会の様相を知るうえで重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 8 <sup>まつもとかいどう</sup> <sup>いといがわし</sup> 松本街道【新潟県糸魚川市】

越後<sup>いといがわ</sup>糸魚川と信州松本を結ぶ北陸道の脇街道で、<sup>ひめかわけいこく</sup>姫川溪谷を南下する山越えの道。塩や海産物を牛やボッカの背で運んだ道で、塩の道として著名。山口番所を過ぎた後の山道が約3.0 km指定されている。今回、江戸時代の遺構が検出された山口番所跡を追加指定する。

9 おうみおおつのみやにしこおりいせき おおつし  
**近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】**

てんじてんのう  
天智天皇6年(667)、天智天皇が飛鳥から遷し、琵琶湖西岸に営んだ古代の宮跡。  
てんむてんのう  
天武天皇元年(672)の壬申の乱で廃絶した。これまでの発掘調査によって、内裏正殿、南門、回廊、塀等の宮跡中枢部分が見ついている。今回、推定宮跡北辺中央と内裏南門周辺の地点を追加指定する。

10 あのをはいじあと おおつし  
**穴太廃寺跡【滋賀県大津市】**

琵琶湖西岸に所在する7世紀後半の寺院跡。発掘調査により、現在の地割方向に中軸をとる創建期の伽藍跡と、その上層にあり、真南北に中軸をとる再建期の伽藍跡が見ついている。今回、推定寺域の北西部、創建期寺域西辺にあたる範囲を追加指定する。

11 しものごういせき もりやまし  
**下之郷遺跡【滋賀県守山市】**

琵琶湖東南部に位置する弥生時代中期の環濠集落。最多で9重の環濠によって集落が囲まれ、集落の入口や中枢部と推定される方形区画が確認されている。環濠から木器や自然遺物が大量に出土しており、当時の集落構造や社会、人々の生活を考える上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

12 たじまこくぶんじあと とよおかし  
**但馬国分寺跡【兵庫県豊岡市】**

奈良時代、聖武天皇の発願によって全国に建立された国分寺の一つ。金堂、中門、回廊や塔の遺構が見ついている。木簡も多く出土し、経営状況がよくわかる。今回、東面築地跡に当たる土地で条件の整った部分を追加指定する。

13 かもしせき かわにしし  
**加茂遺跡【兵庫県川西市】**

弥生時代中期の集落遺跡。環濠に囲まれた中心域に居住区と墓域、環濠の外側にも居住区が形成され、中心域には大型建物とそれを囲む板塀の方形区画が造られた。近畿地方の大規模弥生集落のあり方を具体的に示すものとして重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

14 ふじわらきょうあと かしはらし  
**藤原京跡【奈良県橿原市】**

すざくおおじあと  
**朱雀大路跡**  
さきょうしちじょういち にぼうあと  
**左京七条一・二坊跡**  
うきょうしちじょういちぼうあと  
**右京七条一坊跡**

じとうてんのう わどう とじょうあと  
持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代の都城跡。中心に

ある藤原宮跡は特別史跡となっている。朱雀大路跡は宮の正門である朱雀門から南へ延びる道路跡で、それを境に東側を左京、西側を右京に区分する。今回、左京七条一・二坊跡及び右京七条一坊跡で条件の整った部分を追加指定する。

#### 15 だいかんだいじあと かしはらし 大官大寺跡【奈良県橿原市】

ふじわらきようじょうぼう 藤原京条坊の南東に位置する巨大な古代寺院跡。てんむてんのう 天武天皇2年(673)に建立した高市大寺を天武天皇6年(677)に大官大寺に改称し、現位置にはもんむ文武朝に移ったと考えられる。平城京大安寺の前身寺院。金堂や講堂、塔、回廊の跡などが残る。今回、北西隅部の条件の整った部分を追加指定する。

#### 16 しょうぶいけこふん かしはらし 菖蒲池古墳【奈良県橿原市】

奈良盆地南部の低丘陵に所在する7世紀中葉の大型方墳。2基の家形石棺を納めた横穴式石室を有する一辺30mの方墳で、7世紀中葉の飛鳥地域を代表する終末期古墳であり、日本の古代国家の形成を考えるうえでも重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 17 まきむく さくらいし 纏向遺跡【奈良県桜井市】

奈良盆地東南部に位置し、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて営まれた東西2km、南北1.5kmに及ぶ大規模な集落遺跡。史跡まきむくこふんぐん纏向古墳群やはしはかこふん箸墓古墳が隣接し、我が国の古代国家形成期の様相を知るうえで重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 18 みややまこふん ごせし 宮山古墳【奈良県御所市】

奈良盆地南西端の巨勢山丘陵北麓に、古墳時代中期前葉に築造された墳長約245mの大型前方後円墳。後円部に2基の竪穴式石室の埋葬施設、墳丘に葺石と埴輪が認められる。周濠と周堤を巡らし、周堤に組み込まれた位置に方墳のネコ塚古墳が存在する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### 19 うだまつやまじょうあと うだし 宇陀松山城跡【奈良県宇陀市】

奈良盆地の東南隅の山間地に位置する、中世から近世にかけての山城跡。元和元年(1615)に破却。高石垣と複雑な構造の虎口をもち、礎石建瓦葺建物を配するなど、近世初期城郭の特徴を備える。城跡北側斜面部分の条件の整った部分の追加指定を行う。

20 <sup>ちゆうぐうじあと</sup> 中宮寺跡 <sup>いこまぐんいかるがちょう</sup> 【奈良県生駒郡斑鳩町】

飛鳥時代（7世紀前半）に創建された寺院で、四天王寺式伽藍配置をもつ。『法隆寺ほうりゅうじがらんえんぎならびにきしざいちょう流記資財帳』によると聖徳太子建立の七か寺の一つに数えられるなど、聖徳太子ゆかりの寺院である。今回、伽藍北限とみられる箇所について追加指定する。

21 <sup>あすかきゆうせき</sup> 飛鳥宮跡 <sup>たかいちぐんあすかむら</sup> 【奈良県高市郡明日香村】

7世紀代に歴代の天皇の宮殿が造営された宮跡。発掘調査の結果、<sup>あすかおかもとのみや</sup> 飛鳥岡本宮（<sup>じよめい</sup>舒明天皇）、<sup>あすかいたぶきのみや</sup> 飛鳥板蓋宮（<sup>こうぎよくてんのう</sup>皇極天皇）、<sup>のちのあすかおかもとのみや</sup> 後飛鳥岡本宮（<sup>さいめいてんのう</sup>齐明天皇）、<sup>あすかきよみはらのみや</sup> 飛鳥浄御原宮（<sup>てんむ</sup>天武天皇・<sup>じとうてんのう</sup>持統天皇）の各期の遺構が確認された。今回、内郭南西部等条件の整った部分を追加指定する。

22 <sup>おごおりかんのいせきぐん</sup> 小郡官衙遺跡群 <sup>おごおりし</sup> 【福岡県小郡市】

<sup>おごおりかんのいせき</sup> 小郡官衙遺跡  
<sup>かみいわたいせき</sup> 上岩田遺跡

7世紀の役所跡である上岩田遺跡と、その2. 1km西方に位置する8世紀の役所跡ちくごのくにみはらぐけで筑後国御原郡家に比定される小郡官衙遺跡からなる遺跡群である。今回、条件の整った小郡官衙遺跡の北端部を追加指定する。

23 <sup>すぐおかもといせき</sup> 須玖岡本遺跡 <sup>かすがし</sup> 【福岡県春日市】

福岡平野の南部に所在し、弥生時代中期から後期にかけての墓域、青銅器工房、居住域からなる『<sup>ごかんじょういであん</sup>後漢書東夷伝』に登場する「奴国」の中心地とされる遺跡。今回、条件の整った有力者集団の墓域や青銅器工房域と推定される範囲の一部を追加指定する。

24 <sup>こべいせき</sup> 小部遺跡 <sup>うさし</sup> 【大分県宇佐市】

<sup>すおうなだ</sup> 周防灘に面した宇佐平野上うさへいやに立地する古墳時代前期の集落遺跡。前期初頭には環濠集落、前期前半には環濠内部に方形区画を伴う大型掘立柱建物を有する居館、さらに前期後半には墓域へと変遷する。古墳時代前期における社会構造の変化を考えるうえで重要な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

25 <sup>つかざきこふんぐん</sup> 塚崎古墳群 <sup>きもつきぐんきもつきちやう</sup> 【鹿児島県肝属郡肝付町】

鹿児島県の志布志湾沿岸しぶしわんに所在する古墳時代前期後葉頃から中期中葉まで営まれた古墳群。古墳文化の南限として重要。33号墳や、地下式横穴墓が存在する可能性のある地区について、条件の整った部分を追加指定する。

## 26 ちやたんじょうあと 北谷城跡【なかがみぐんちやたんちやう 沖縄県中頭郡北谷町】

13世紀後半から16世紀前半にかけて、沖縄本島西海岸沿いの舌状丘陵に営まれた中山地域の拠点となったグスク跡。南北約165m、東西約500mの範囲に野面積の石垣や切岸により五つの曲輪を配置する。今回、二の曲輪及び四の曲輪の南側斜面から麓にかけての部分、東グスクの北側及び東側の一部について追加指定する。

### 《名勝の新指定》 1件

#### 1 のいけ 納池【たけたし 大分県竹田市】

納池は、標高1,700m級の峰々が連なるくじゅう連山の南麓に広がる久住高原の南端部に位置する。久住高原には、それらの火山群に起源する火砕流堆積物、軽石層、火山灰層などから成る火山麓扇状地が発達していて、標高600～1,000mの緩斜面を成す裾野には湧泉や湿地が広く分布する。納池は、こうした火山麓扇状地末端からの湧泉によって形成された景勝地で古くから知られ、明治6年(1873)の公園設置に係る地所選択についての府県への太政官布達第16号にいち早く応じて、同年7月20日付けで直入郡桐迫村の保長らから大分県権令に申し出られた「人民游観之場所願」を受け、明治8年6月2日に公園として認可された。その敷地は、北西から南東に細長い緩やかな谷戸の地形にあって、北端奥部から切り込む比高差10m余りの急斜面下に広がる緩斜面のそこここから湧水を生じて沢を成し、その南に広がる池泉左岸の岬には、水の流れを司る水波能売命を祀った納池神社が鎮座する。池畔は古くから育まれてきた森厳なるスギ木立に囲まれ、清浄な池泉を中心とした風致景観に優れた基調を添えている。太政官布達に基づき初期に開設された公園の九州地方における事例として貴重で日本公園史における学術上の価値が高く、湧泉に特徴付けられる風致景観は優れている。

### 《天然記念物の追加指定》 1件

#### 1 ごゆ 御油の松並木【なみき とよかわし 愛知県豊川市】

旧東海道に残されたクロマツの並木である。江戸時代からの古木も見られ、江戸時代後期の姿を今に残す代表的なものである。並木マツの根系を保護する目的で、道路敷の外側約15mを保存区域とし、順次追加指定を進めている。今回は同意の得られた民有地を追加指定するものである。

# 登録記念物の登録

## 《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 4件

### 1 明神山（送迎山）【奈良県北葛城郡王寺町】

明神山（標高273.6m）は、大阪府と奈良県の府県境、奈良盆地の西を南北に縦走する生駒・金剛山系に属し、大和川が山系を分かち金剛山地の北端に位置する。近世の畠田村領に当たるこの地域は、役行者が法華経28品を埋納した経塚を巡拝する葛城修験の第28番経塚として明神山や亀の瀬が比定されており、古くからの信仰地として知られ、かつて送迎山と呼ばれて、水神社が祀られてきた。その名には諸説あるが、聖徳太子が斑鳩と河内の往来の折に、送り迎えの使者がここに落ち合い、それが昼飯時であったことから「送迎」と書いて「ひるめ」と読むようになったとも考えられており、その道の名も送迎道と呼ばれて来た。江戸時代のおかげ参りに伴って、文政13年（1830）にわずか1年余りの間、山頂に祀られた送迎太神宮を描いた『和州送迎太神宮之圖』には、信仰地の様子が窺われ、夕日に向かい難波や住吉、淡路島への眺望を求める人びとの姿も伝えている。明神山は、生駒・金剛山系の中でもひとときわ低い岳峰であるが、周囲の地勢の相対的な関係から、四方八周の広大な眺望に開け、東の奈良盆地や西の大阪平野、南北の山並みを一眸のうちに収める。古代以来の地域における歴史文化の象徴を成し、低山ながら現代にもその眺望が広く親しまれている名所として意義深い。

### 2 丸井氏庭園【鳥取県倉吉市】

丸井氏庭園は、倉吉市の中心市街地に位置する。倉吉市の市街地は、打吹山の北麓に東西に細長く伸び、東側が商家街、西側が職人街となっている。その間は料亭が多数存在した区域で、丸井氏庭園はその一角を占めている。料理屋等の組合の事務所を運営していた丸井岩次郎（1875－1944）は、大正5年（1916）に主屋と茶室を新築し、その後昭和初期に庭園を現在の形に整えた。施工は神戸の庭師 巽武之助が請け負ったと伝わる。

丸井氏庭園は南北に細長い短冊状の敷地の中に造られている。敷地の北西部に主屋、北東部に茶室「如々庵」、南側中央に離れ、南東部に土蔵が建ち、庭園の主要な部分は北側と南側の建物間に位置する。庭園の中央に園池があり、東側に築山と流れを設けている。築山からの流れは二手に分かれながら園池へつながるが、現在水は涸れ、流れや園池には石が敷き詰められている。主屋では奥座敷が庭園に面しており、奥座敷からは園池の奥に築山、その向こうに打吹山の稜線を見ることができる。

丸井氏庭園は昭和初期に整えられ、現在までその姿がよく残っている。造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

### 3 上林の風穴【愛媛県東温市】

上林の風穴は、松山平野の東部南側にそびえる皿ヶ嶺（標高1,271m）の北斜面の上林地区に所在し、標高960m付近に位置する。四国最高峰の石鎚山（標高1,982m）から西方に伸びる皿ヶ嶺の連峰は、南斜面が緩やかであるのに対して、平野に面する北斜面は急傾斜を成し、懸崖に数多くの滝が見られるとともに、石鎚層群に由来する安山岩の巨岩や土砂による崖錐がところどころに発達して緩斜面が形成されている。風穴は、こうした急斜面から緩斜面に移行する地帯にあり、差し渡し2mを超える巨礫を含む岩塊堆積物の内部に溜まっている空気の温度の年較差が外部と比べて小さいことによって、冬季には崖錐上部に、そして、夏季には崖錐下部から空気が吹き出す現象が生じるものと考えられる。特に夏季には、風穴の周辺に冷気が漂うとともに、崖錐の内気が外気と接触することで霧が白く発生し、鬱蒼とした林床に苔生した巨礫の折り重なる様子と相俟って、印象的な風致景観を成す。夏季に冷気が立ち籠めるこの場所は、山を南に越える往来があって古くから地域住民には知られており、遠足地としても親しまれてきた。皿ヶ嶺の北斜面に固有の地形や地質を反映した特徴ある自然現象を生じる場所であり、近年において広く親しまれる景勝地として意義深い。

### 4 穴井戸観音【大分県豊後高田市】

穴井戸観音は、国東半島南西部の田染に所在し、田染真中と田染小崎の境に岩峰群を成す間戸ン岩の田染真中側の北西部中腹において南東に口を開いた洞穴とその入口に設けられた薬師堂などから成る名勝地である。田染は、宇佐神宮の本御荘十八箇所のひとつとして平安時代後期に成立した「田染莊」の故地として知られる。古く穴井戸観音は、本寺として安貞2年（1228）の「安貞目録（豊後国六郷山諸勤行并諸堂役祭等目録写）」（『長安寺文書』）にも記される間戸寺の行場の一つであったと考えられる。洞穴は、薬師堂の背後の高さ約3m、幅約6.5mの開口部から、奥部に「濡れ観音」を祀る奥行き20m余り、最大幅13m余り、最大高さ4m余りのドーム状を成し、さらに右手斜め奥には「穴井戸」と呼ばれる長細く狭隘な隙間が緩やかに下っていて、かつては水を湛えていたと伝わる。濡れ観音にはいつも水が滴り落ちていて、六郷満山の開基とされる仁聞菩薩が峯入り修行の際に喉を潤したとも言われ、また、穴井戸は古くは港があった権現ノ鼻に通じているともされてきた。穴井戸観音を臨む間戸地区は、台地にあって灌漑用水の恩恵を受けにくく、古来より水の確保に苦心してきたところで、穴井戸観音は雨乞い神事などとも結び付いた信仰地として崇められてきた名所として意義深い。